

作成のねらいと構成

1 副読本作成の目的

東日本大震災の教訓を踏まえて、仙台市内の小・中学生が防災および減災の意識を高め、命の価値や自助・共助の重要性を自覚するとともに、主体的な判断力・行動力の定着を目指した副読本を作成し、その効果的な活用を通して本市防災教育の充実を図る。

2 副読本の特徴

■ 発達段階への配慮と分冊間の統一性

発達段階に合わせて「小学校 1・2・3 年」「小学校 4・5・6 年」「中学校」の 3 分冊構成とし、内容の難易度や文字の大きさ等に配慮しました。一方、どれも共通のコンセプトに基づいた六つの章構成をとるとともに、重要な学習事項については各分冊で繰り返し取り上げ、学習事項の定着を図るようにしています。

■ 学校教育の幅広い場面で活用可能な内容

既存の防災指導計画や教科・領域の指導計画にも組み込みやすいよう、各資料を取り扱う教科・領域名を幅広く想定し、副読本にも明示して様々な場面で柔軟に活用できるよう努めました。また、指導の参考に副読本の年間活用計画例も掲載しています。

■ 防災教育に関する「キーワード」の設定

「東日本大震災を受けた防災教育・防災管理等に関する有識者会議—中間とりまとめ—」（文部科学省）ならびに「H24 年度杜の都の学校教育『新たな防災教育』」（仙台市教育委員会）の中から 27 の「キーワード」を拾い上げ、各分冊の資料中に網羅しました。また、キーワードのいくつかは第 6 章「学びの窓」において取り上げ、解説を加えました。

【副読本に取り入れたキーワード】

- | | | | | |
|-------------|-------------|----------|-------------|-----------|
| 1 危険予測・回避能力 | 2 主体的行動 | 3 自然との共存 | 4 日本の特色理解 | |
| 5 地域密着の教材 | 6 率先避難者 | 7 災害心理 | 8 ハザードマップ | 9 減災 |
| 10 体験的な活動 | 11 状況に応じた対応 | 12 過去に学ぶ | 13 ボランティア活動 | |
| 14 語り部 | 15 心の教育の充実 | 16 家族会議 | 17 情報の入手・活用 | 18 家庭地域連携 |
| 19 自助 | 20 共助 | 21 心のケア | 22 科学的知識 | 23 救急法 |
| 24 公助の体制 | 25 災害の影響 | 26 サバイバル | 27 社会への参画意識 | |

■ 読みやすさ使いやすさへの配慮

リード文で内容のあらましや学習の目的をつかんだ後、本文の学習へ進むという流れを基本としています。本文中には適宜見出しを設けるとともに、「学習課題（考えよう）」や「記入欄」を設けたり、関連学習としてのコラム記事を掲載したりして、児童生徒の主体的な学習を支援しています。

■ 実践面と意欲・態度面のバランス

防災教育としての実践マニュアル的な内容に加えて「生命尊重・思いやり・自主自律」等、心の教育面も重視した内容構成に努めました。

■ 神戸市の取組や神戸市との連携に関する資料の掲載

3 副読本の構成および各資料の概要

■ 副読本の基本構成及び各分冊・各章の特色

	小学校 1・2・3 年	小学校 4・5・6 年	中学校	
各分冊で学ばせたい中心内容の特色	震災の教訓を踏まえ、命を大切に、家族や仲間と支え合って復興に向かう意欲を持たせる。状況に応じた判断と自己防衛力の基礎を身につけさせる。親しみやすいキャラクターを配置した。	理科や社会の教科書と関連付けて、科学的知識やまちづくり、世界とのつながりなどが学べる構成となっている。コラムを活用することで、学習を発展的に扱える工夫をしている	自分たちが体験したことを直視し、それを乗り越えるための知識と知恵を与える。仙台市の自分づくり教育の視点も見据え、身近な大人からのメッセージを受け取ることができるようにした。	
復興ソング	1P / 「希望の道」掲載	1P / 「希望の道」掲載	1P / 「仲間とともに」掲載	
目次	2P / キャラクター紹介	2P / 副読本を使うに当たって	2P / 副読本を使うに当たって	
第 I 章	東日本大震災の事実を記憶にとどめることを目的に、写真を中心に発災から復興の足どりを4ページに掲載。残り2ページは、読者へ基本テーマのメッセージ（下学年：命を守る，上学年：主体的判断・助け合い，中学校：語り部の自覚）を掲載。			
	章名	あの日をわすれない	マグニチュード9.0	東日本大震災の記録
	資料数/ページ	3資料 P4～P9	3資料 P4～P9	3資料 P4～P9
第 II 章	復興途上という現在位置を自覚し、今後も共に前へ進もうという自覚を持たせることを目的に、避難所での助け合い、各校での復興プロジェクト、仙台市の復興施策等を掲載。			
	章名	ふっこうにむけて	復興への道	復興への歩み
	資料数/ページ	5資料 P10～P19	5資料 P10～P19	6資料 P10～P21
第 III 章	正しい知識を得ることが主体的で適切な判断につながるという考えから、地震・津波、台風、雷等の自然災害のメカニズムや災害時の心理等の科学的知識を掲載。			
	章名	自ぜんのしくみを知ろう	自然災害の正しい知識	自然災害のメカニズム
	資料数/ページ	3資料 P20～A25	5資料 P20～P29	8資料 P22～P37
第 IV 章	「自助」をキーコンセプトに、災害が様々な場面で起こることを前提とした主体的判断の方法や具体的な防災・減災の知識を獲得することを目的に構成。防災の知識、緊急時の対処法、家族会議、救急法、防災マップ作り、心のケア等を掲載。			
	章名	もしものときに	防災人としての知恵	自助につながる判断・行動
	資料数/ページ	10資料 P26～P45	9資料 P30～P47	5資料 P38～P47
第 V 章	「共助」をキーコンセプトに、感謝・思いやりの心と自ら支援や思いの発信を行おうとする態度を育むことを目的に構成。ボランティア活動、他都市・海外からの支援、神戸との連携、感謝のメッセージ等を掲載。			
	章名	みんなの力で	心を一つに	共助の一翼を担う
	資料数/ページ	6資料 P46～P57	5資料 P48～P57	5資料 P48～P57
第 VI 章	年間の学習のふりかえりと授業での補助的・発展的活用を目的に構成。資料1は防災知識のチェック、資料2は東日本大震災の基本データとキーワード、発展学習への誘い、資料3は仙台の自然災害年表と復興年表を掲載。			
	章名	しりょう	資料	資料
	資料数/ページ	3資料 P58～P63	3資料 P58～P63	3資料 P58～P63
後付	編集関係者名、作成協力、資料提供先等の掲載			
補足	* 1資料見開き2ページとし、章ごとにデザイン色を統一。 * 今回の震災の教訓を踏まえ、特に大切な学習資料と考えられるものには、目次と資料冒頭に「！」の記号を付与。			

4 副読本の効果的な活用・発信に向けた改訂概要

副読本の活用状況について現状を把握し、内容及び活用の仕方を見直すことを通して、児童生徒の防災及び減災の意識を高め、命の価値や自助・共助の重要性についての一層の自覚を図るために、平成25・26年度 活用検証委員会によって一部内容の改訂を行いました。

(1) アンケートや関係機関等から寄せられた意見・取組を反映

- ① (各3冊共通：頁扉) 復興ソングの歌詞，楽譜の掲載
- ② (小学校用2冊) 第1章：写真キャプション番号の並び替え
- ③ (中学校 P30・31) 「特別警報」等の反映
- ④ (小1・2・3年用) 授業の流れを考慮し，内容の順番の入れ替え
- ⑤ (小1・2・3年用) 「東日本大震災」と「東北地方太平洋沖地震」との表記の説明を挿入

(2) 最新の情報に更新

- ① (各3冊共通：表紙) 仙台七夕（復興プロジェクト）の写真
- ② (各3冊共通) 第6章2「東日本大震災の記録」
 - ・仙台市の被災状況 → 最新データ(H26.9.30)に修正
 - ・調査活動のためのwebサイト → 最新のものを確認して掲載
- ③ (小1・2・3年用) 仮設住宅の写真 → H25.10月撮影のものに差し替え
- ④ (小4・5・6年用)
 - ・資料名 仙台市避難所運営マニュアル（事前準備解説編）平成25年4月に
 - ・資料名 津波からの避難の手引き（暫定版）第2版 平成25年4月に
- ⑤ (中学校用) 自主防災組織率や神戸市危機管理室資料を最新データに修正

(3) 内容や表記，様式等の統一を図る

- ① (小学校用2冊：P62・63) 第6章3「仙台の自然災害年表・復興年表」
 - ・年表中の記述をそろえる
 - (小4・5・6年用)「復興への歩み」記入欄の形式をそろえる
- ② (小1・2・3年用) 平仮名と2学年までの履修漢字の混ぜ書きの部分
→ 一部，3学年履修漢字を使用し，ルビを振る

(4) 26年度版との違いが一目で分かるよう，背表紙に 平成27年度版 と明記

活用上の留意点

1 年間活用計画例の利用に当たって

色の付いた文字の部分が副読本の資料名で、章別に色分けしています。色のない部分は想定される行事等で、年 2 回の復興プロジェクトと年 3 回の避難訓練が書き込まれています。

年間活用計画例は、参考として示したものですから、学校の実態によって資料の実施学年や実施時期、取り扱う教科・領域等に変更を加えてください。その場合は、教師用手引き通りの展開は難しいと思われるので、発達段階や教科・領域の特性に応じ、指導方法をアレンジして実施する必要があります。

2 教師用指導資料の活用について

■ 教師用手引きについて

どれも、年間活用計画例の位置づけに基づいて作成されています。必要な部分をダウンロードし、ねらいや授業の流れ、留意点を確認してから授業に臨んでください。6 章の「資料」は、他の資料と併用して随時活用する他に、年度末のまとめ学習としての展開例（1 時間扱い）を掲載しています。

■ ワークシートについて

全資料には、授業で活用できるワークシートを示しています。Word 様式で載せていますので、ねらいや実態に応じて、使いやすいように加工した上で利用することも可能です。

3 心のケアへの配慮について

防災副読本を使った学習においては、津波による被災を体験している児童生徒や、被災地からの転校生などの存在に十分留意するとともに、心のケアの観点から心身の健康状態が懸念される場合は、資料の取扱いを変更する等の配慮をしてください。特に 1 章の被害写真や 3 章の地震・津波に関する内容を扱う際は、児童生徒の状況に応じた柔軟な対応が必要とされます。

4 その他

- ・ 「資料の概要一覧」は、副読本の概略を理解したり、自校の指導計画を作ったりする時の参考として活用ください。
- ・ 指導資料を閲覧するにはパスワードが必要です。各校に文書通知されていますので、ご確認ください。なお、掲載されているデータの著作権は仙台市教育委員会に帰属しますが、学校独自で修正・改善した資料の著作権は、当該校に帰属します。

新防災教育副読本は、先生方の声を反映させながら毎年度改訂を加えていきます。副読本を読んだり副読本を用いた授業を行ったりしての感想や意見を、教育センターまでぜひお寄せください。 bousai-h@sendai-c.ed.jp